

(原因疾患や身体状況によって経過が異なりますので、この通り経過を辿る訳ではありませんが、今後の生活の目安としてください)

【常に手助けが必要】



本人の思い
顔や表情から
くみ取ってほしい

- 歩行が不安定になる
- 着替えの動作ができない
- 声かけや介護を拒む
- 意思疎通が難しくなる
- 尿意や便意を感じにくくなる
- 飲み込みが悪くなり、食事に介助が必要となる
- 表情が乏しくなり言葉が減る
- 古い記憶も失う
- 言葉が理解できなくなる
- ほぼ寝たきりの状態となる

は自分の健康を大切にしましょう。

- 介護保険サービスなどを上手に利用する。
- 病気が重くなりやすいので医療機関とこまめなやり取りを心がける。
- どのような最期を迎えるか、できるだけ本人の視点に立って家族間で話し合っておく。
- 介護負担が増えるため困ったことがあれば抱え込まず、早めに担当ケアマネジャーや地域包括支援センターに相談する。

型居宅介護
など



特別養護老人ホーム（要介護3～）

人間はこの世に生まれたときから、
一日一日歳を重ね、
やがて誰にでも老いや死が訪れます。

医師などと相談して、
残された能力に応じたケアを行い、
本人が望む人生の最期となるよう
サポートをしてください。

この時期は、たとえ体の状態は衰えたとしても、
心の状態はとても穏やかです。

意思疎通が出来なくても、
耳は聞こえている場合もあり、
名前を呼んだり、好きな音楽を流したりし、
コミュニケーションをとってください。

皮膚の感触が残っている事もあります。
手や足をさすってあげたり、
そばにいてあげたりすることが、
不安を和らげ安心な気持ちにつながります。

